

2019年度 事業及び活動報告

1. 認定特定非営利活動に係わる事業報告

2019年度も多くの災害が日本各地で発生し、その復興が進まない中、2020年新年早々新型コロナウイルスにより感染が広がり、今や世界中で多くの人びとが亡くなる状況になっています。終息がいつになるかわからないという初めての経験を私たちはどう乗り切っていくのか問われています。そのような状態の中で年度末を迎えました。

WE21 ジャパン海老名はこの1年厳しい経営が続きました。

9月から海老名市でごみの有料化が始まりました。その前にできるだけいらぬ物を整理しようという行動が市民の中で起こりました。10月から消費税が8%から10%になり、購買意欲の落ち込みが、ショップの売上げにも現れました。チラシ配布やイベントを行って呼びかけましたが売上げ増には至りませんでした。このような中でしたが、着物フェアでは、初めてボランティアアドバイザーをお願いしたことで、売上げアップに繋がったことは今後の対策のヒントにもなりました。

一方、企業訪問は1社訪問にとどまりました。チャリティショップを広めるためにももっと力を入れなければならないと思いました。

また、職業体験や、ユース・ボランティアを受け入れたことは、若い人たちにチャリティショップのことを知ってもらう機会となりました。また今年度は、地域活動している団体やえびなっ子スクール以外の小学校から「ろうそくづくり」参加の呼びかけがあり、対応できたことは新たなWEの活動を広める機会となりました。

新型コロナウイルスの影響や、売上げ減のため支援金が昨年度より大きく落ち込んだことは残念でした。一方、3・11の企画として、初めて市役所エントランスホールで「母ちゃんず」の保養キャンプの写真展を行い、不特定の来庁者に足を止めて見てもらえました。WE21の活動パネルも掲げて支援活動を行っている団体の存在をアピールできました。

2030年度を目標に進められているSDGsの17の目標の中では、自分たちの活動がいくつも当てはまることを改めて認識するとともに、もっと市民にアピールしていかなければならないことを学んだ1年でもありました。

2. 事業内容及び活動内容報告

1) 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース・リサイクル事業）

(1) 事業報告

- ① 市民の皆様からの寄付提供品（不要になった衣類、日用品など）を販売し、スタッフと多くのボランティアでWEショップを運営しました。
今年度は、近隣にリサイクルショップが開店したこと、消費税増税、新型コロナウイルスの影響もあり、厳しい結果となりました。
- ② 安定したショップ業務を展開するため、毎月スタッフ会議を開催し、さまざまな課題について話し合いました。感謝祭やフェアなどのイベントを企画し、理事会に提案し、以下のように実行しました。

2019年度 感謝祭・フェア一覧

実施月	企画内容	売上金額
6月1ヶ月間	夏のご支援・優待券配布期間	
7月1日～31日 1ヶ月	夏のご支援・優待券利用期間	623,140円
8月29日～31日 3日間	バッグフェア	226,318円
9月17日～28日 11日間	コートマルシェ	108,648円
10月1ヶ月間	秋のご支援・優待券配布期間	
11月1日～16日 1ヶ月	秋ご支援・優待券利用期間	597,053円
2019年 3日間	初春まつり	66,419円
2月15日～18日 4日間	和のものフェア	495,195円

フェアなどのイベントを開催することで、多くのお客様に足を運んでいただくことが出来ました。また、買うほどお得セールを行い売上につなげました。開催後には反省会を実施し、次年度へ向けて様々な意見交換を行いました。

- ③ 6/18 にボランティアの集いとして「5歳若返るメイクアップ講座」を開催しました。参加者にはとても好評で、楽しい企画も必要だと感じました。
- ④ ボランティアミーティングをボランティア参加者に必要に応じて行いました。毎月の理事会で討議決定された内容で、共有したい事柄を中心に原稿を作成し、伝えました。ボランティアからの意見を聞く良い機会ともなりました。
- ⑤ チャリティショップであることを、様々なツールを利用して発信できました。Facebook ページを使い、イベントやキャンペーンについて情報を発信し、WEショップで買い物することの意味を伝える努力をしました。
- ⑥ イベントに参加し、WE21 ジャパン海老名、WEショップえびなを市民にアピールすることができました。
- ・商工会主催 「得する街のゼミナール」
 - ・海老名市主催 えびな環境展
- ⑦ リメイクチーム活動を支援しました。
- “WE21 ジャパン海老名 リメイクボランティアに関する申し合わせ”を基にリメイク作品制作及び販売を支援しました。その他、課題が出たときはリメイクチームの会議やスタッフ会議で意見交換を行いました。
- リメイクチームのフェアを開催しました。

- ⑧ ユース・ボランティアと職場体験学習を受け入れました。
中学生・高校生を受け入れ、WEショップの役目について伝えることができました。

(2) 活動報告

- ① 企業組合ワーコレ・キャリアを通じエコものセンターを活用しました。
季節外の寄付提供品をストックし、有効な寄付提供品の管理、活用に努めました。

- ② 環境問題に貢献しているナカノ（株）と連携して、衣類に関しては最後までリ
サイクル化に努めました。 月 2 回 4,452kg/年間
2019年4月から2020年3月までの12ヶ月間

*販売品としてショップに出せなかった木綿類は、地域 NPO 法人の福祉施設へ提供することで、有効活用につなぐことが出来ました。

- ③ ショップで販売出来なかったガラス製品は(有)飯室商店、陶器は木村管工(株)を通じて再資源化に努めました。

内 容	リユース・リサイクル事業 (WEショップえびな運営)
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目 14 番 46 号 チェリーコート海老名 103
従事者人数	スタッフ 4 人、ボランティア総人数 58 人
受益対象者	一般市民
収 入 額	6,213,648 円
支 出 額	5,716,601 円

2) アジアなどにおける市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を通じて支援する事業 (民際支援事業)

(1) 事業報告

- ① 支援先の人々の問題解決に向けて、地域の人々の課題解決に向けて、共に考え、共に育ち、共に生きる社会の創造を目指し、海外支援の助成をしました。

海外支援先としてパレスチナ、アフガニスタンを選ばれました。

パレスチナ・ガザ地区はイスラエルによる厳しい封鎖や軍事攻撃により、経済は壊滅状態にあります。2018年3月から始まった「帰還の進行」デモに対するイスラエルの攻撃により、状況は更に厳しくなっています。子ども達の栄養失調や貧血の割合は非常に高く、国連レポートは2歳以下の子どもの60~70%が貧血であると報告しています。恒常的な栄養不良は長期的な発育にも悪影響をおよぼし、健全な成長の機会を奪っています。

貧困なくそうキャンペーンの支援先にアフガニスタンを選びました。

アフガニスタンは成人の識字率が世界で最も低い国々の1つです。JVCは事業とし

て男女の区別なく、15歳以上の若者と成人の識字教育と普通教育を行っています。

チョコ募金はイラク、福島の子どもたちとシリアの難民を支援するための募金です。今年も(株)リコー・社会貢献クラブ Free Will の協力でショップの出張販売と共にチョコ募金の呼びかけをすることができました。チョコ募金は年を重ねることで定着し、募金に協力して下さる方が増えてきました。

クリスマスに合わせてフィリピンの子どもたちにクレヨンをプレゼントするレインボーキャンペーンは11年目になりました。フィリピンのベンゲット州で活動をする現地のNGO団体 IYAMAN(イヤマン) の環境教育プロジェクトの一環で、クリスマス時期に実施するレインボーキャンペーン。今年も新たに小学校に通う子どもたちにクレヨンを届けられたことでしょう。

・パレスチナ・ガザ地区

JVC(日本国際ボランティアセンター)・子どもの栄養失調予防事業

支援8年目になります。JVCは、栄養失調の子どもたちに直接支援を届けることから子どもたちをその地域社会が守っていくことができる仕組みづくりの活動に取り組んでいます。2014年7月から始まったイスラエルによる大規模侵攻後、2015年10月からジャベリヤ市ビルナージャで子どもの栄養失調予防事業を再開しました。2016年度もこの事業に取り組み、この事業によって地域保健ボランティアと母親たちの知識と技術の向上が認められ、子どもの栄養状態が飛躍的に改善されました。その実績が認められ、ユニセフとの協力が実現し、新しい地域で活動を実施していましたがJVCのパートナー団体AEIとの活動は、ユニセフとの契約が終了してから、まだ大型の資金が獲得できていないため、以前に比べると小規模にはなっています。また、2018年3月から始まった「帰還の進行」デモに対するイスラエルの攻撃により、多数の死者と負傷者が出ており、人々の暮らしは悪化する一方です。この事業のための資金が足りない状況になっています。

・貧困なくそうキャンペーン

JVC(日本国際ボランティアセンター) 教育支援活動

JVCアフガニスタン事務所が現地法人化した新しい団体「YVO」とともに、地域教育(識字)、平和構築、提言という3つの活動を行っています。2018年度から始まった識字教育は第1期で280人が終了し、そのうち9割が女性です。文字が読めることで携帯電話が使えるようになり、また大切な書類も読めるようになりました。

・レインボーキャンペーン (フィリピン)

イヤマンの子どもたちにクレヨンをプレゼント

フィリピンの子どもたちにクリスマスプレゼントとしてクレヨンを贈る「レインボーキャンペーン」は11年目になりました。期間を設けて募金への協力を呼びかけました。今年は167人分のクレヨンをプレゼントすることができました。生まれて初めて自分のクレヨンを手にすることができました。今後も大勢の子どものもとに届けられるように継続していきます。

② 東日本大震災復興支援に助成をしました。

3/11 を忘れないキャンペーン (1月14日～3月31日)

3月9日～11日の3日間のショップ売上金、募金を「母ちゃんず」に継続支援金として送りました。6年目になる子どもの甲状腺検査プロジェクト・いわき放射能市民測定室「たらちね」には有志からの指定寄付金を支援金としました。

年2回行ってきた保養キャンプでしたが、春キャンプは新型コロナウイルスの影響で開催ができなくなりました。

「いわき放射能市民測定室・たらちね」は、は2011年3月の原発事故をきっかけに、その年の11月にいわき市の主婦が中心となって立ち上げたNPO法人です。2017年5月に「たらちねクリニック」を開設し診療を始めています。

・「母ちゃんず」の企画・運営費

「母ちゃんず」は相模原市のお母さんたちが、2011年10月に発足し、2012年春から保養キャンプを企画、運営している団体です。放射線量の高いところで生活していると思うように外遊びができない福島の子どもたちに外遊びを楽しんでもらい、親子でリフレッシュできるような場を提供しています。今年度は夏キャンプで計19回目、延800人以上の親子を招待しました。

・子どもの甲状腺検査プロジェクト・いわき放射能市民測定室・「たらちね」

食材・土壌・身体放射能測定や福島の子どもを保養プロジェクト

震災時18歳以下だった子供を持っている保護者たちの不安に答えるため、画像診断と触診による甲状腺検査を無料で行っています。

甲状腺検査のほかに、ホールボディカウンター検査(身体全体の被ばく量の検査)、食品・土・海水・屋内のゴミなどの放射能の測定、β線の測定をしています。

「たらちねクリニック(測定室兼検診センター)」は、地域の子どもたちが健康に成長できるよう願って開設したクリニックです。今後の健康に備えるための「子どもドッグ」を無料で行い、来院する母親たちにとって放射能に関する不安や疑問などをストレスなしで話せる重要な場所になっています。いわき市以外に県内外に出張検診を行っています。

③ 海外支援助成費及び東日本大震災支援金及び各募金総額 235,378 円

2019年度WE2121ジャパン海老名支援先・支援金額(店頭募金・寄付金を含む)一覧

支援国	支援先	プロジェクト名	金額	実施年数
パレスチナ	JVC パレスチナの活動支援	ガザ:こどもの栄養失調予防事業	20,000 円	9年目
アフガニスタン	JVC 教育支援	貧困なくそうキャンペーン	76,560 円 (内募金 12,875 円)	12年目
フィリピン	IYAMAN Association, Inc	クリスマス 「レインボーキャンペーン」	8,357 円(募金)	11年目
シリア、イラク 日本	ジムネット	チョコ募金	51,846 円	6年目
日本	相模原市 「母ちゃんず」	母ちゃんず～福島の子ども たちを守りたい保養キャンプ	58,615 円 (内募金 25,153 円)	8年目

日本	福島県いわき市 いわき放射能市民 測定室・たらちね	食材・土壌・身体放射能 測定や福島の子どもを 保養プロジェクト	20,000 円	6 年目
		計	235,378 円	

④ WEトレード品の取り組みをしました

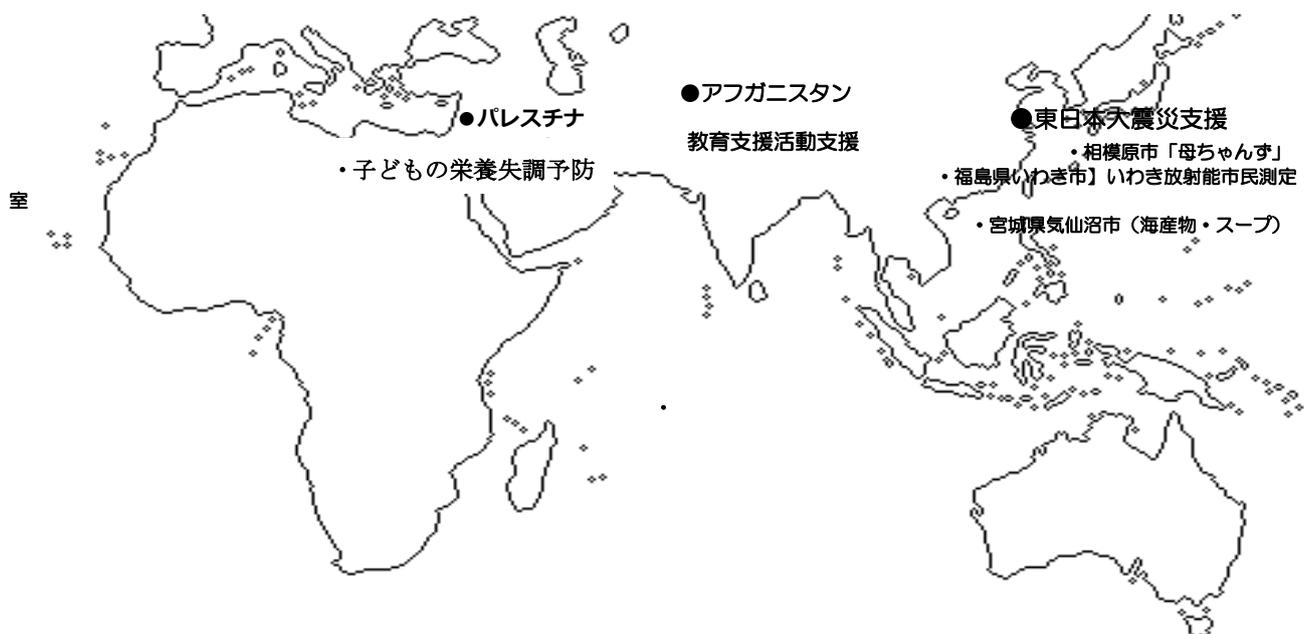
- ・ジンジャーティ、アシーラ石鹸の取り組みを通年行いました。
- ・「3.11を忘れないキャンペーン」(1月14日～3月31日)では、いわき市の物産品、宮城県気仙沼市の海産物・スープなどの取り組みを今年度も行いました。

WEトレード仕入 (2019年4月～2020年3月)

国	WEトレード品	送金先	仕入金額
フィリピン	ジンジャーティ	ウバパス, ダイヨコン ランダバ	49,000 円
パレスチナ	アシーラ石鹸	フレンズオブアシーラ	10,489 円
日本	海産物	西野食品 (株)	27,065 円
日本	海産物	(有) ムラカミ (宮城県)	255,300 円
日本	フェアトレード品	SVA クラフト・エイド	27,074 円
日本	フェアトレード品	ネパリ・バザーロ	12,701 円
日本	フェアトレード品	シサム工房	3,600 円
		計	385,229 円

⑤ 支援部会は、情報交換を含めた共有活動を行い、支援体制を整えていきました。

- ・年8回の部会を開催し、理事会で決定したことを共有するとともに、理事会に責任を持って支援先の提案をしました。
- ・ショップに支援先情報コーナーを通年設置しました。また、年3回のキャンペーンに合わせて、スタッフとともに店内掲示の工夫をしました。キャンペーン中は、支援部会員が参加し、物産品のアピール、募金などの呼びかけをしました。
- ・支援先である相模原市の「母ちゃんず」の協力を得て、『心はいつも子どもたちといっしょ』実行委員会・吉田智彦さんの写真展を海老名市役所エントランスホールで開催の企画をしました。新型コロナウイルスの影響で開催が心配されましたが、無事実行できました。
 - ・共有部会と共に2回のWE講座を計画しました。1回目はJVCの大澤氏に「パレスチナの活動」の題目でパレスチナの現状とJVCの活動を知ることができました。第2回目は3.11に合わせて「母ちゃんず」に依頼し開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で実現できませんでした。



内 容	民際支援事業
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目 14 番 46 号 チェリーコート海老名 103
従事者人数	ボランティア、会員 5人
受益対象者	海外支援先の人々、東日本大震災被災地者及び一般市民
収 入 額	493,606 円
支 出 額	622,751 円

地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育事業）

（1）事業報告

WE 2 1 ジャパン海老名の各事業を推進していくため、また市民の参加と共感を得るために、支援部会と「WE 講座」を開催しました。

① WE 講座の開催

開催回数 1 回／年

*講師 支援先スタッフ・国内外支援の現状に詳しい人・様々な分野で活動している方々など

*対象者 WE 2 1 ジャパン海老名会員・ショップボランティア・地域市民

第 1 回 WE 講座「パレスチナの活動を知る」平和づくりを草の根から

10 月 3 日(木)9 時 30～11：55 文化会館 351 多目的室

参加総数 25 人

講師 JVC 大澤みずほ氏

第 2 回 WE 講座は 3 月 1 1 日に行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で文化会館が休業したため、やむをえず中止になりました。

(2) 活動報告

① 小学校の体験学習・遊びの場の提供を目的に開催されている海老名市各小学校における学校応援団主催の「えびなっ子スクール」に参加しました。結果はニュースに掲載しました。また、今年度は地域活動から社家小学校からも要請があり参加するとともに国分コミセンで社協関係の居場所での企画で「ろうそくづくり」を行いました。大変好評で楽しんでもらえ、またWE 2 1 ジャパン海老名のことも話すことができました。今後の来店者につながることを期待します。

有馬小 38 人、上星小 27 人 海老名小 37 人
社家小学校(アンケート回答者 30 人) 国分コミセン(回答者数 22 人)
ニュースに掲載

② 海老名市社会福祉協議会主催のユース・ボランティア募集にエントリーし、中学・高校・大学生のボランティアを受け入れました。
7 人の受け入れを行いスタッフの協力に対応しました。
オリエンテーション 7 月 19 日、8 月 22 日の報告会にも参加しました。

内 容	共育事業
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目 14 番 46 号チェリーコート海老名 103
従事者人数	ボランティア 1 名・会員 2 人
受益対象者	一般市民
収 入 額	25,000 円
支 出 額	7,252 円

4) この法人の事業の広報普及を図る事業 (広報事業)

(1) 事業報告

WE 2 1 ジャパン海老名の支援事業及び運動を紹介し、支援を広げていくために「WE 2 1 ジャパン海老名ニュース」の発行や、その他の広報手段を使い広報普及に努めました。

毎月地域に配るチラシをカラーにすることによって、見やすいチラシ作りに努めました。

今年は多く市民にWEショップを知って頂くため、海老名市発行の「資源とごみの分け方・出し方」に有料広告を載せ、反響がありました。

- ① WE 2 1 ジャパン海老名ニュースを年 4 回発行しました。
Vol 62 発行 6 月 30 日 (2 面) カラー 700 部
内容 総会報告、2018 年度の支援金のお知らせ
バッグフェア開催のお知らせ、寄付金募金の呼びかけ

夏季休業のお知らせ、日曜日営業のお知らせ
支援先シリーズ「たらちね」、ボランティアの集い報告

Vol 63 発行9月30日(4面) カラー800部

内容 貧困なくそうキャンペーンのお知らせ
支援先シリーズ「アフガニスタン」
えびなっ子スクール報告/アンケート結果、8月バッグフェア報告
ユース・ボランティア感想、インターン感想、SDGsとは
寄付品・寄付金・募金・ボランティアの呼びかけ

Vol 64 発行12月15日(2面) カラー700部

内容 3.11キャンペーンのお知らせ(吉田智彦写真展・WE21講座)
買うほどお得セール予告、JIM-NETチョコ募金のお知らせ
レインボーキャンペーンの報告、お陰様フェア報告(リメイク7周年)
WE講座報告(パレスチナの活動を知る)
貧困なくそうキャンペーン報告、年末年始休業のお知らせ
初春まつりのお知らせ、和のもののフェアのお知らせ

Vol 65 発行3月15日(2面) カラー700部

内容 3.11キャンペーン報告(吉田智彦写真展)
まちゼミ報告、和のもののフェア報告、中学生職業体験報告
株リコーでの販売風景、チョコ募金報告
総会開催のお知らせ、寄付提供のお願い、ボランティア募集

- ② 毎月部会を行い、WE21ジャパン海老名ニュースやチラシの内容を検討し、理事会に提案しました。
- ③ Facebookを活用し、最新な情報の発信に取り組みました。
- ④ WE21ジャパン海老名の活動紹介やショップの場所や各種イベントを市民に知らせるカラーチラシを作成しました。今年度は、ボランティアと共に毎月配布しました。これにより、提供者と来店者の拡大を図ることができました。
- | | |
|-------------------------------|---------|
| ・海老名市内 | 22,100枚 |
| ・その他店頭で毎回200~300枚(年間 約3,000枚) | |
| ・年間チラシ | 7,000枚 |
| ・支援チラシ | 700枚 |
| ・3.11キャンペーンチラシ | 1,000枚 |
| ・3.11キャンペーンポスター | 100枚 |
| チラシ総合計 | 33,900枚 |
- ⑤ ショップイベント毎にポスターなどを作成し、お客様へアピールをしました。
- ⑥ 昨年度支援した支援先情報を載せたチラシを作成しました。

内 容	広報事業
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目 14 番 46 号 チェリーコート海老名 103
従事者人数	ボランティア、会員 5 人
受益対象者	一般市民
支 出 額	83,471 円

5) その他、第 3 条の目的達成に必要な事業（組織活動）

- ① 理事会を毎月開催し、総会方針に基づき事業計画を執行すると共に新しい課題については必要に応じて討議決定し、執行しました。またデジタル決算の PayPay を導入し購入者の便宜を図る事を進めました。
- ② WE 2 1 ジャパンと「WE 2 1 ジャパンの目的を達するための合意書」を交わし、定款の目的を達成するために組織活動の充実を図ります。「リユース・リサイクル環境事業委託費」を支払い、使用する倉庫、配送業務、および全国からの寄付品対応に係る業務の経費を支払いました。WE 2 1 ジャパンの理念の実現に向けて連携して活動を進めました。
WE 2 1 物流経費 404,605 円 WE 2 1 商標使用料 120,000 円
WE 2 1 グループ活動推進費 72,600 円
合計 597,205 円（年間）
- ③ WE 2 1 ジャパン海老名の会員へ定期的に理事会議事録と海老名ニュース等の機関紙を送付し、情報の共有化を図りました。会員の活動への参加も呼びかけましたが、参加者が少なかったことから魅力ある企画にして、参加者を増やすことが課題です。
- ④ WE 2 1 ジャパン海老名の活動に支援して下さる会員の目標を
・個人会員 103 人 団体会員 6 合計 109 人の予定でしたが、
1 月末現在 個人 103 人団体 5 で 108 人です。
- ⑤ 認定 NPO 法人として、市、県指定 NPO 法人として事業活動の充実を図ります。認定を取得した他の地域 NPO も増えてきたこともあり、グループ会議に参加し、情報の共有化をしました。
- ⑥ チャリティショップとして活動している内容が SDG s（持続可能な開発目標）の目標である「貧困をなくそう」「人や国の不平等をなくそう」「陸の豊かさを守ろう」「働きがいも経済成長も」は 17 項目の中でも遂行できています。今年度は自然エネルギーを使用している電力会社へ移行を進めました。また、店内のライトを LED にしました。電気の使用料金を少し下げることができました。私たちの生活の中での見直しなど、積極的にアピールし、市民に対しても SDGs への理解を深めてもらうため掲示板をつくり、環境へ配慮していることをアピールしました。店頭ではエコバッグ持参を呼びかけました。持参していない方には、

寄付された紙袋で対応し、ビニール袋の使用は極力止めました。中学校や他の企業とSDGs学習会を呼びかけがあり参加の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響のため中止になりました。

- ⑦ 海老名市に対して、環境問題解決に向けての活動を行っていること、民際交流・支援を通し平和活動をしていることをアピールしましたが、市指定NPO、活動に対するメリットを設置するよう要望はできませんでした。しかし、写真展を市役所で開催できたことでWE21ジャパン海老名のアピールができました。
- ⑧ 地域における生活クラブ運動グループの「コミュニティ・オプティマム福祉マネジメントユニット会議」及び「居場所を考える会」に代表メンバーを送り情報の共有化を図りました。
- ⑨ 海老名市教育委員会の依頼で、市内中学校4校の職場体験を受け入れました。
- ⑩ 地域商店会における活動は、商店街の事業がなかったため参加の機会はありませんでした。しかし交流会や総会に出席する事でWEショップへの理解を高める事はできました。また地域企業への訪問は1社のみで積極的に進めることができませんでした。
- ⑪ (株)リコーで行われたCSR活動へ1月に参加をしました。福祉施設への出張販売は要望がなかったため参加できませんでした。
- ⑫ 海老名市が主催する、「えびな環境展」等に参加し、WE21ジャパン海老名の活動をアピールできました。チャリティショップであることをもっと大きく掲げ、利潤追求型の店舗との違いを示しました。
- ⑬ 地域大型店(イオン海老名店)黄色いレシートキャンペーンに参加しました。参加の機会を活かし、不特定の市民へチラシを配布し、活動をアピールできました。
- ⑭ Facebookで行い始めたネット販売については、なかなかできませんでしたが、特徴ある物がでたときは、対応しました。ジモティについては手続きの不備からまだ実践できていません。
- ⑮ 5カ年計画目標2年目に向け実行しました。

内 容	組織活動
個人会費	154,500円(103人)
団体会費	25,000円(5団体)
寄 付	148,788円
収入合計	370,640円
支 出	557,825円